

# 技術・家庭科（家庭分野）の主張

平林亜希子

## 1 教科で育みたい人間像

技術・家庭科（家庭分野）では「生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択する人」を育みたいと考えている。「豊かな意思」とは、昔から伝わる生活の知恵を積極的に活用したり、世の中にあふれる生活に関する情報を収集したり、思いや考えのことである。このような意思で、現状に合わせながら生活を選択していく人、つまり、生活する主体者として、現在の自分の生活と照らし合わせながら、常にその時の最善を選択できる人であると考えている。

私たちにとって、食べる、着る、住む、買うという行動は習慣であり、生活を形成しているものであると言える。私たちは、習慣となっていることを意識せずに行うことがある。人によって家庭環境はもちろんのこと、生活経験も生活の中の優先順位や求めているものが異なる。自分の生活環境や置かれた立場が変化したり、生活経験を積み重ねたりしていくことによって、これまで何気なく行ってきたことにも目を向けることができるようになる。そこから「もっとこうしていきたい」「もう少しよりよくできるのではないか」「改善の必要がある」など、生活に対する思いや課題意識が生まれ、価値観が変わってくることもあるだろう。生活は常に変わっていくものであり、自分の意思で豊かな意思を選択していくことに終わりはないと言える。変化の激しい社会の中でも、生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択できる人であってほしいと願っている。

## 2 教科で願う子どもの学び

技術・家庭科（家庭分野）で願う子どもの学びは「普段の生活と多様な価値観を照らし合わせながら自分の生活に合った意思決定をすること」である。意思決定とは、習慣となっていることを自分事として、現在や未来の自分の心構えや行動について考えることである。生活の中の一場面に置かれた自分の状況を想定して意思決定することは、豊かな意思に基づいて生活することにつながると考えている。

子どもが意思決定をするまでの過程では、まず自分の生活を見直すことを大切にしている。自分にとって当たり前前の方が他者にとっては当たり前とは限らない。現状でそれほど不自由を感じることなく、課題だと思うことなく過ごしていることもある。そこで自分の当たり前を見直すことで新たな気づきや疑問をもつようになる。それらを共有することで、自分の知らなかった価値観を知り、見えなかった部分に気づかされ、より詳しく知りたいと考える。例えば、短時間でできる栄養バランスのよいメニューはどのようなものがあるか、食品の保存は、どんな物も冷蔵庫や冷凍庫にしまえば大丈夫だと思っていたが、食材に合わせた保存の仕方があることなど、生活の中での当たり前から自分の生活に合った工夫をする姿もあるだろう。このように、健康や環境について、この先の未来に与える影響、人とのかかわりなどの視点から生活を選択することにより、生活に対する視野を広げられ、自分の生活で大切にすべきところを考える点が見えてくるだろう。さらに、実践的・体験的な活動を通して解決策を検証し、効果の実感や想定していなかった問題点に直面することもあると同時に「前よりは少しよくなった」「他にも自分ができることがありそうだ」という思いをもつことができるだろう。こういった過程を繰り返すことによって、生活に対する思いや課題意識をもち、新たな課題を解決しようとしていく姿につながると考える。

複数の題材の配列も考えながら、授業づくりをする中で、私たちの生活は、多くの人や多くのものがかかわり合って成り立っており、子どもたちがそれぞれのつながりを意識して考えていく姿を目指していきたい。

「現在の生活と照らし合わせながら自分の生活に合った意思決定をすること」を繰り返していくことによって、子どもたちは「生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択する人」になっていくだろう。このようにして、私たちは、家庭科の授業だからこそ育むことのできる子どもの学びの実現を目指したいと考えている。

## 本年度の授業実践と分析

### 授業実践 1



1 題材名 「自分にとっての「すてきな消費者」をめざそう」（第2学年）

2 本題材で願う学び

自分の消費行動を振り返るために、消費者観マップ作りやロールプレイングを体験しながら、ロールモデル作りを描くことを通して、自分の消費者観を豊かにし「すてきな消費者」に迫っていくことができる。

【学習指導要領との関連：消費生活・環境（2）ア、イ】

3 本題材の実際の流れ

時間	問い	学習内容
1・2	自分の消費行動を振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の消費行動を振り返るための消費者観マップ作りを行う。</li> <li>身近な商品を選択するときが一番大切にしている要素を思い出す。</li> </ul>
3・4	自分のロールモデルを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動から更新されてきた自分の消費者観からロールモデルを描く。</li> </ul>
5	ロールモデルをPRしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールモデルを共有する。</li> <li>多様なロールモデルを知り、自分の消費者観を豊かにする。</li> </ul>
6・7	「すてきな消費者」ってどんな人だろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちがそれぞれ考えたロールモデルを全員分読み、いいなと思うところやキーワードを書き出す。</li> <li>クラスで考える「すてきな消費者」を共有する。</li> </ul>

4 「ありたい自分」を思い描く子どもについて

(1) 「ありたい自分」を思い描く子どもの姿とその場面

本題材では第3時～第4時の「自分のロールモデルを作ろう」、第5時の「ロールモデルをPRしよう」、第6時～第7時の「「すてきな消費者」ってどんな人だろう」において「ありたい自分」を思い描く姿が見られた。

①「自分のロールモデルを作ろう」

この2時間は、授業者が子どもにこれまでの活動で更新されてきた消費者観と自分がいいなと思ったり、目標にしてみたいと思ったりする人などを組み合わせるロールモデルを作ろうとなげかけた。子どもは、自分の消費者観を基に以下のような対象を考えた。

(子どもが考えた対象)

- ・身近な人
- ・環境への配慮ができる人
- ・企業
- ・TVやSNSで活躍する人 など

このような対象が出てきたところから、自分の消費者観と組み合わせたロールモデルを作り出した(図1)。

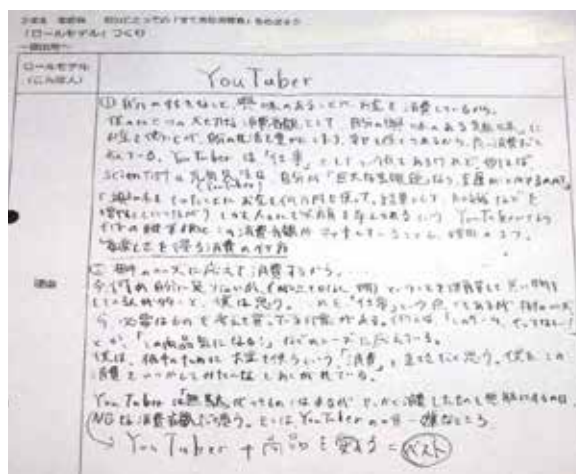


図1 子どもが作り出したロールモデル

以下は、子どもがロールモデルを作った理由の記述である。なお、子どもはそれぞれA・B・Cと記した。

（ロールモデルの理由）

A：自分の好きなこと、興味があることにお金を消費しているから。僕のひとつの大切な消費者観として、自分の興味のある「趣味」にお金を使うことが自分の生活を豊かにしたり、幸せを感じたりできるからよい消費者だと考えている。

B：スポンジبوبは、フライパン返しをとっても大切に使っています。名前をつけたりしていて、色々あってそのフライパン返しが壊れたとき、町中の人の中の前に行って大泣きをしたという話があります。フライパン返しだけでこんな反応をするのは、すごいと思っています。

C：物を無駄にしない、大切に作る人の特徴を調査してみると「物を大切に作る人は人間も大切に作る」ということが出てきて、そこで人間つき合いを大切にすると物を大切にするのは比例しているとわかった。

1・2時間目で消費者観マップ作りをした子どもは、今まで意識をしていなかった自分の消費者観が浮かび上がってきたと考える。そこから、自分の消費者観を基にしてのロールモデル作りは、子どもには難しいようであった。しかし、A「僕のひとつの大切な消費者観として（中略）よい消費者だと考えている」の文章から、自分の消費者観が明確となり、ロールモデルとして掲げた人との共通点を見つけ出すことができたと考えられる。B「フライパン返しだけでこんなに反応するのはすごいと思っています」の文章からは、一つの物を大切に使い続けることや大切だと思える気持ちに驚き、このように考えるスポンジبوبのすごさを感じていたと言える。C「物を大切に作る人は人間も大切に作る」の文章からは、自分が考える「すてきな消費者」はどんな人だろうと考える中で物と人とが比例することに気づき、こういったロールモデルに近づきたいと考え設定したと考えられる。

このロールモデル作りの活動から、自分では気づかなかった視点や考え方に会い、その中から自分の生活に合ったロールモデルを選択する子どもや目標に掲げた人に近づきたいと考える子どものようすが見られた。

## ②「ロールモデルをPRしよう」

この場面では、子どもが作りあげたロールモデルを発表した。発表の際にグループ内で質問が活発に行われ、多様なロールモデルを知り、新たな消費者像が見えてきた。以下は、発表した子どもの感想である。なお、子どもはA・B・Cと記した。

（ロールモデル 発表後の感想）

A：みんなから「無駄」というキーワードが出てきた。自分のロールモデル「YouTuber」と比べたときに、そこだけが相違点だなと思った。自分のロールモデルの特徴は相手のニーズに応じて消費するという点だと考える。また、みんなの発表を聞いて「無駄な消費」と「好きなことへの消費」は違うと感じた。無駄な消費をしてしまっても別の物にリメイクしたり、人にあげたり、3Rを心がければよいのではないかと思う。

B：ロールモデルを考えるのはすごく難しかった。でもスポンジبوبのことが知れてよかったという気持ちもあります。私は新しい服が家に来ると、前に買った服がぐちゃぐちゃになってしまいます。今回この授業をやって、自分の行動を改めることができました。これからは、新しい物や服、買ってもらうものや買った物を大切にしたいと思いました。

C：人それぞれ、様々な視点からロールモデルを決めていてとても興味深かった。  
「物への関心・人の性格・職業など」  
物を大切に使用していたり長く使う物も重要だけど、物の「選び方」についてもどれがいいのかしっかり吟味したり、物を買うための「お金の使い方」に関しても計画を立てて、これは必要か、これは不必要だから買わないなど取捨選択するのも大切だと思った。

お互いのロールモデルを聞き合うことで、自分の思い描いていたものと違う消費者観を知ることができた。A「みんなの発表を聞いて「無駄な消費」と「好きなことへの消費」は違うと感じた」とあるように、「無駄」という同じ言葉でも、とらえ方が変わることによって違うものに変化していくことに気づいた。B「今回、この授業をやって、自分の行動を改めることができました」の文章では、グループの中でロールモデルを聞き、物を大切に作るなどの考えを知り、今まで自分の行ってきた行動を改めたいと考えたのだと

言える。C「物の「選び方」についてもどれがいいのかしっかり吟味したり」の文章では、一人の消費者として、物をどう選択すれば「すてきな消費者」に近づけようか考えたり、取捨選択の必要性を考えたりしていたと分析できる。

この発表から、同じ言葉でもとらえ方によって違う思いや考えが見えたり、物の大切さから自分の行動を改めようとしていたり、一人の消費者としてどう選択すればいいだろうと考える子どもの姿が見られた（図2）。



図2 ロールモデル発表のようす

### ③「すてきな消費者」ってどんな人だろう

この2時間は、子どもが考えたロールモデルを読み合い「いいなと思うこと」「キーワード」となるところを書き出してから、学級で全体共有した。子どもからは、以下のような内容が多く出された（表1）。

表1 クラスで共有した内容

(いいなと思うところ)			
• いらなと思ったものの活用方法→3R			
• 自分の行動力について考えていた			
• 普段から環境を考える→素敵な生活			
• 人のためや外にも自分にも使う			
• 無駄使いをしない→自分のおこづかい			
• 社会や環境について考えている			
• 見極める			
• 大事に扱う			
(キーワード)			
• 環境	• 権利	• 責任	• 大事
• お母さん→日用品を買う			
• 無駄にしない			
• 活用	• 人のために行動		• 自覚
• 自分のため	• 環境問題		

学級で全体共有したあとに、「このクラスにとっての「すてきな消費者」ってどんな人だろう」と授業者がな

げかけた。「すてきな消費者」のとらえ方が人によって違うことや多様な思いがあることに気づいている子どもは「いいなと思うところ」「キーワード」を基にして、このクラスにとっての「すてきな消費者」を作り上げた。以下は、子どもがこのクラスの「すてきな消費者」について考えた記述である。なお、子どもはA・B・Cと記した。

(このクラスにとっての「すてきな消費者」ってどんな人だろう)

A:「無駄」という共通のキーワードとしてよく出てきた。しかし、僕の意見を踏まえると無駄の意味が違ってくると考えた。無駄をしない人というのは、生活費に全て捧げ自分の趣味に一切お金を使わない「無駄」と本当に要らないものを省く「無駄」とがあり、後者の「無駄」の方が自分の生活を豊かにする手段になるので、よいロールモデルになるかなと考えた。一口に「無駄」と言っても色々な無駄があり、何の種類の無駄がいけないのか、一番よいロールモデルにつながるのはどの無駄を減らすべきなのかを考えていくことがとても重要だと感じた。

B:自分は「人のため以外にも自分のために使う」消費者もあっているなと思いました。キーワードと共に、環境・自分のためなど「人のため以外にも自分のためにも使う」消費者に似た意見だなと自分は思いました。そして、すてきという言葉に当てはまっているなと思いました。なので、YouTuberみたいだなと思いました。Aさんのロールモデルがしっくりきたし、意見がいいなと思いました。

C:自分の必要なものと環境のこと（SDGs）とお金の3つの視点からこの商品は自分の条件に合っているな、または違うななど商品の評価できて、取捨選択ができる人だと思う。これらの3つの視点から見ると、無駄遣いを防いで地球にも優しい、お財布にも優しいという無敵で死角なしな消費者になれる！（けれど、3つは一気に厳しいから、まずは一つ一つ心がけていくとよいと思います）

この記述の中でAは「無駄という共通のキーワードとしてよく出てきた」と述べている。Aはロールモデルを作り上げてから「無駄」という言葉を使い、どのように改善すれば生活を豊かにすることができるのか

を考え続けていた。このAが言う「無駄」は、無駄を考える中でも順位があり、人によって無駄のとらえ方が違うことを考えていたのだろう。さらにAは「一番よいロールモデルにつながるのはどの無駄を減らすべきなのかを考えていくことがとても重要だと感じた」と述べていることから「すてきな消費者」をめざすためには、ロールモデルの設定がどれだけ重要になるのか気づくことができたかと推察される。B「環境・自分のためなど、人のため以外にも自分のために使う。消費者に似た意見。すてきという言葉に当てはまっている」の文章は、スポンジポップをロールモデルとしていたBが、もう一度「すてきな消費者」を考え直したとき、全体共有ができたことによって、新たな思いや考えが自分の中にプラスされていき、考えに変化が見られたのではないだろうか。C「自分の必要なものと環境のこと（SDGs）とお金の3つの視点」に注目し、この視点を用いることによって「無敵で死角なしな消費者になれる！」と述べていることから、視点を重視して買い物をしたり、取捨選択をしたりすれば「すてきな消費者」に近づいていけると考えたのだと言える。

この全体共有から、A「無駄」の中にある優先順位、B「すてきな消費者」を考え直すことで自分の行動の変化、C「3つの視点」に注目し「すてきな消費者」に近づきたいと考える姿があった。そこから、身近な部分で自分たちでもできることを考えて行動できる人でありたいと思ったのではないかと考える。子どもからは、以下のような「すてきな消費者」が考えられた（表2）。

表2 クラスにとっての「すてきな消費者」について考えたこと

(クラスにとっての「すてきな消費者」はどんな人だろう) ・買った物をずっと大切に管理するミニマリスト ・配慮のできる人 ・丁寧な人 ・優しく物を扱う
--

(2) 授業者の「教科で願う学び」との関連

教科で願う学びは(i)普段の生活と多様な価値観を照らし合わせること(ii)自分の生活にあった意思決定をすること2つに分けてとらえている。また、本題材で願う学びは(iii)自分の消費者観を豊かにし「すてきな消費者」に迫っていくことができるととらえている。

「ありたい自分」を思い描く子どもの姿とその場面を記述した中で、それぞれの願う学びを意識して授業を展開していくと(i)や(ii)が見られることによって(iii)の姿につながっていくことがわかった。例えば「すてきな消費者」ってどんな人だろうという場面では、子どもがそれぞれ考えたロールモデルを読み合い「いいなと思うところ」「キーワード」となることを全体共有し、そこからこのクラスにとっての「すてきな消費者」を作りあげていくときにロールモデルの内容として「環境」に目を向ける子どもや物を大切に扱いたいと考える子ども、人を大切にしたいと考える子どもがいた。このクラスでは、「環境」に目を向けていきたいという考えを自分の価値観に新たな価値観として増やしている姿が見られた。また、自分の生活に合った身近なロールモデルを選択する子どもやTVやSNSで活躍される人を目標に掲げ、その人に近づきたいと考える子どもがいる中で、このクラスでは、全ての物を選択しようとする姿が見られた。これは、意思決定をしようとする姿である。

この姿は、授業者が考える、普段の生活と多様な価値観を消費生活の場面で比較したり、考えたりしながら、意思決定につなげていく姿である。また、このようなことを繰り返していくことで、消費生活の場面以外でも自分の生活に合った意思決定をすることにつながっていくと考える。

このことから、授業者が願う学びを意識し授業を展開していくことは、子どもたちの「ありたい自分」の姿が見られると考えている。

## 本年度の実践における成果と課題

### 1 「教科で育みたい人間像」について

#### (1) 成果

本年度「生涯にわたって豊かな意思に基づいて生活を選択する人」という育みたい人間像をもって授業を実践してきた。

それぞれの授業を通して、生活に対する思いや課題意識が多様であり、自分のもっていた価値観に新たな価値観がプラスされることによって、豊かな意思につながっていき、最善の選択ができる姿が見られた。このような授業体験を子どもが積み重ねていくことによって、人間像に迫っていくことができると考えている。

#### (2) 課題

今後、授業者が「豊かな意思」についてより具体的なイメージができるようにすることが必要だと考える。生活は常に変化しているものであり、子どもたちが自分の意思で選択していくことに終わりはないので、思いや考えが豊かになるような題材設定や展開を考えていきたい。

### 2 「教科で願う学び」について

#### (1) 成果

本年度「普段の生活と多様な価値観を照らし合わせながら、自分の生活に合った意思決定をすること」という願う学びをもって授業を実践してきた。

「消費生活」での「自分にとっての「すてきな消費者」をめざそう」では、自分のもっていなかった消費者観から他の視点や新たな考えに出会う姿や自分の生活に合ったロールモデルを選択する姿があり、自分の行動について考えたりまとめたりする姿は、多様な価値観を照らし合わせ、意思決定する姿につながっていたと考えており、この授業で十分に行えたと考える。今後も多様な価値観をたくさんもたせられる授業を構想していきたいと考える。

#### (2) 課題

本実践では、教科で願う学びは効果的にできたものの、家族・家庭生活の題材では、コロナ禍で対面的な活動が実際には難しいところがあった。実践的・体験的な活動が効果的ではあるものの、子どもたちが題材の中まで入り込んで考えることが難しい場面が見られた。活動があることによって子どもたちは、生活に対する課題意識や生活に対する視野が広がっていくと考える。子どもたちが切実感をもち、理想と現実の生活を照らし合わせながら、生活をよりよいものにしていける授業構想を工夫するとともに、複数の題材の配列について吟味し、子どもたちがそれぞれのつながりを意識して取り組める姿を目指していきたいと考えている。

### 参考文献・参考資料

- ・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』開隆堂。